

本愛

発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

心を一つに、未来を切り拓く――

若年層の各会が、絆と信仰を深める

若年層の各会が8月と9月に活発な行事を次々と開催し、信仰心と仲間との絆を深めている。

8月9日～13日に親里で開催された「学生生徒修養会 高校の部」を皮切りに、17日には青年会・学生会・むつみ会による合同例会、続く23日～24日には女子青年による「こかん様に続く会」が行われた。

さらに9月13日には青年会本愛分会の「青年会の集い」も予定されている。

8月9日～13日、「学生生徒修養会 高校の部」が親里で開催された。本愛学生会からは9名が参加し、一期一会の仲間たちと教理を学んだ。

続く17日には、青年会・学生会・むつみ会による合同例会、23日から24日にかけては、女子青年が「こかん様に続く会」をおちばで開催された。

年間活動目標

今日を陽気に。
つながる、
つなげる。



青年会・学生会・むつみ会
合同例会の様子

に続く会をおちばで開催。

こかん様についての勉強会を詰所で行った後、三昧田分教会を見学。こかん様がどのような中にも教祖を信じ、明るく素直に通られた足跡を学び、そのお姿を手に本に教えに沿った日々を過ごすことを目指し、熱心に学ぶ姿が見られた。

「青年会の集い」

開催間近に迫る

9月13日には青年会本愛

分会による「青年会の集い」が開催される。

この行事は本愛に繋がる全青年会員が対象で、月次祭の祭典講話後、華洲館三階にて会食・グループ交流が行われる。「心を一つに、未来を切り拓く」をテーマに、青年会員が将来のお道を共に通る仲間たちと繋がり、青年らしい情熱と団結力を発揮して、教会や地域社会に貢献する力を身につけることを開催趣旨としている。

本愛に繋がる青年会員が一堂に会し、講話を通じて教えの深さを学び、会食を通じて絆を深める絶好の機会となる。なお、祭典講話には天理教青年会副委員長・前川治輝先生にご登壇いただく予定。参加申し込みは左記のQRコードから。



申し込みフォーム
から氏名、教会名を
ご入力ください。

9月のこよみ

入社祭・秋季霊祭

1日 午前10時

よふき会例会

2日 午前10時

鼓笛隊練習日

7日 午前10時

月次祭

13日 午前10時

青年会の集い

13日

布教実修所

14日 午前10時

むつみ会例会

16日 午前10時

こども食堂MOG U

17日 午後5時

婦人会例会

20日 午前10時

女子青年例会

20日 午前10時

鼓笛隊練習日

21日 午前10時

本部月次祭

26日 午前9時

修養科志願者面接

26日 午後2時

於・本愛詰所

習字のO K E I K O

5週目を除く毎週木曜日

華水教室

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



教祖年祭に向かう最後の年である今年、ようぼくはおさづけを取り次ぐ機会も増えていると思います。

おさづけを取り次ぐときに、相手の身上のたすかりを願うことはもちろんですが、取次人がどのような心を持って取り次げばよいかという点もしっかり考えておかなければならないのではないでしようか。

梶井孝四郎先生は、『おさしづ語り草』という書籍の中で、このようにおっしゃっています。

ここに一本の渋柿がある。いくら渋柿であつても、その渋柿の幹から切つて、その幹に甘柿の穂を接ぐ、そうしたなら甘柿



に接げる。しかしいくら甘柿の穂を接いでも、その継ぎ目に肉が巻かなかったならば、甘柿にはならないのである。その継ぎ目の肉になるのは温みと水気である。温みと水気が肉となるのやとつしやる。すなわち、月日の御守護である。(中略) おさづけを取り次ぎして頂くに先立つて、話一条のお取り次ぎをさして頂く。渋柿の心が甘柿に、心の立て替えができる。それ渋柿の幹に甘柿の穂を接いだのや

また、おさづけは相手の身上の部位を神名を唱えながら撫でるのが原則です。この「撫でる」ということについても、

撫でる理は、教祖の、撫でてでも、さすつてでも救けてやりたいとの親心と、お説きくださっています。

私も取り次ぎの際には、たすかつてもらいたいという心はあつても、撫でるという行為自体にはそれほど考えが及んでいませんでした。

相手を撫でるときには、「たすけてやりたい」との教祖の温かい親心が伝わる、取り次げるように心がけたいものです。

一人でも多くの参加を

さて、今回はこの連載をお読みいただいている方、また、YouTubeの配信をご覧いただいている方、お願いがあります。

本年も10月18、19の両日に名古屋市内で「名古屋まつり」が開催され、郷土英傑行列には、例年通り本愛鼓笛バンドも出演予定です。昨年は、少年会員だけではなく鼓笛バンドのOBやOGなど育成会員も一緒に参加したのですが、非常に好評で、第1回から70年間でずっと出演を続けてきた英傑行列に総勢70人で参加することができました(写真)。

私も昨年、何十年ぶりに衣装を着て参加したのですが、今年も育成会員、少年会員いづれも、ぜひ多くの方に参加いただきたく、募集しております。

参加いただくには、あらかじめ練習に参加いただく必要がありますが(9月の練習日は1面に掲載)、実はこの英傑行列は来年以降は実施未定になっているようで、貴重な機会になる可能性があります。ぜひご検討いただければと思います。

公式サイトと YouTube をご活用ください!

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



天理教 本愛 Q 検索

- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想

言わん言えんの理を探る



今年の夏も厳しい暑さの連続でした。しかしまだこの先も残暑が続きますし、台風の接近も予想されるので、熱中症対策を心がけると共に、大雨に対する警戒と備えを怠ってはなりません。教祖が「火水風」とお教えくださった自然の恵みに感謝の心を持つと同時に、豪雨による災害が起こらないよう祈るたすけ心を持ち続けたいものです。

*

教祖はおふでさきの中で、自然災害について次のように仰せになつています。

このたびハなにか月日のさんねんを つもりあるからみなゆうてをく

このところたすけ一ぢよとめられて なんてもかやしせすにいられん

このかやしたいしや高山とりはらい みな一れハしよちしていよ

このはなしなんとをもふてきいてる てんび火のあめうみわつなみや

こらほどの月日の心しんぱいを せかいぢうハなんとをもてる

(六―113〜117)

この一連のおうたに込められる神意を悟り切ることには難しいですが、災害という節を通して、人間同士が国境を超えて助け合つてほしいと望んでおられること

だけはまちがいありません。それは次のおうたに明らかです。

このさきハせかいぢううハ一れつに よろづたがいなたすけるなら

月日にもその心をばうけとりて どんなたすけもするとをもゑよ

(十二―93〜94)

この親心を胸に治めた上で、私たちが日常使う電気ガス、水道、食料など衣食住に関するすべての元と原材料は、親神様の十全の守護によるものだという事実を思い起こしましょう。そして、自然の恵みに対する感謝と慎みを心に刻んで日々の生活を送ることが、自然災害が起きないようにするために、何よりも大切

な姿勢だと思ひます。

■お道の句いを伝える

一方、おふでさきには、はやくとをもてでよふとをもへとも みちがのふてハでるにでられん

(二―13)

というお言葉があります。

親神様は、真にたすかる道へ導いてやりたいと思つておられますが、ようぼくがその道を付ける働きをしてくなくては、神が働きたくても働けない、という意味です。そのために引き寄せられたのが私たちようぼくですから、自らがまず日々を教え通りに生きて、自然に対する感謝と報恩の心を世界へ映すにいがけの努力が大切になります。

ようぼくの中には、信仰は好きでもにいがけは苦手、という人が多いかもしれません。しかし人前で天理教の話をしなくてもにいがけはできます。という

より、自分が教えに基づく生き方を心がけ、何に対しても感謝と報恩の気持ちを持つていけば、言葉は使わずとも自然にお道の「句い」が伝わっていく。これが本当のにいがけです。

戸別訪問に歩いたり路傍講演をするなどして、積極的に教えを伝える実践も大切ですが、それ以前にまず自分が教えに沿った喜びづくめの生き方をしているかどうかが肝腎で、にいがけはそこから始まるということになります。

九月はにいがけを強く意識して実行する「布教推進月間」です。形に捉われず、自分にできるにいがけの方法を工夫し、陽気づくめの心が世界へ伝わるよう努力を重ねていきましよう。

教えに基づく感謝報恩の生き方と、それを周囲へ広める誠実が天に通じる時、災害のない世界へと導いていただけるのです。

【第128回】

感謝報恩の信仰と生き方に、 にいがけで世界へ映そう

全教会布教推進月間

～一手一つに世界たすけの歩みを進めよう～

立教188年9月1日～9月30日

第153回教人資格講習会

修了者

(令和7年7月11日付)

門田二三美(本理愛)

7月のおさづけの理拝戴者

渡辺洋華(本諏訪)

魏俊宇(本愛慶心)

鈴木穂香(本豊國)

7月の初席者

渡辺洋華(本諏訪)

おちばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう！

第1012期 修養科生大募集

《集合・面接》 ☆日時…9月26日 午後2時 ☆場所…本愛詰所

※9月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

大教会日誌

令和7年7月25日～令和7年8月24日

7月

25日 常任役員会議

12日 常任役員会議

26日 本部月次祭

13日 月次祭

27日～8月3日 こどもおちばがえり

祭主 大教会長 扨者 大橋進、吉田克義

8月

1日 入社祭

指図方 都築隆道 賛者 山本治行、鈴木真也

◇祭典講話 出口順英

祭主 大教会長 扨者 和光重男、山本正太郎

◇大教会長挨拶

指図方 杉村善男 賛者 大池美公雄、中島裕信

14日 布教実修所

◇祭典講話 大橋新一郎

17日 青年会・学生会・むつみ会合同例会

◇大教会長挨拶

於・三重県菰野町 朝明川 (参加者30名)

2日 よぶき会例会

18日 こども食堂MOGU

9日～13日

20日 婦人会例会

学生生徒修養会 高校の部 (参加者9名)

23日～24日 こかん様に続く会